

飯石郡 (須佐郷)



須佐神社

「出雲国風土記に記された郡内人口」と「郡内と想定される現在の地域に住んでいる人口と世帯数」

飯石郡(等級:下)	現在の地域(上段:世帯、下段:人口)							雲南市掛合町 穴見・入間
	須佐郷	合計	佐田(反辺)	佐田(須佐)	佐田(朝原)	佐田(原田)	佐田(大呂)	
里3	674	209	126	69	80	167	23	
1,200	2,106	653	401	188	264	524	76	

出雲国風土記掲載事項チェック

	風土記表記	現在名称	所在地
郷	ご自分の御魂をここに鎮め置かれた	自分の名をこの土地につけた	
	大須佐田・小須佐田	須佐社を考えると須佐社創始の伝承とも考えられる	須佐にあった大小の田
寺社	記載なし		
山野	堀坂山	堀坂山(H505m)	佐田町朝原の東北方にある山
河川・池	斐伊河	斐伊川	
	須佐川	須佐川	神戸川の中流
	神門川	神戸川	
海岸地形	盤鋸川	神戸川上流	
	記載なし		
通道	斐伊河	斐伊川	
	須佐径	神戸川に沿って須佐郷を通る道路	

須佐神社

神社が鎮座する辺りは地形的には出雲市のほぼ中央に位置している。荘厳な社の中にそびえたつ大社造の本殿は、千木までの高さが約12メートル、巾約4メートル。古くは四間四方あったと伝わる。元応2年(1320年)の古図では現在の4倍もの豪壮な社殿とも伝える。その裏手には周囲約7メートル、樹齢約1200年を数えるという「大杉」がそびえる。近年、パワースポットとして訪れる人が絶えないご神木だ。

神社には「須佐の七不思議」という伝承がある。その「七不思議」とは「塩ノ井」「神馬」「相生の松」「影なし桜」「雨壺」「落ち葉の横」「星滑」であるが、境内には、現在、スサノオノミコトがこの水をくんでこの地を清められたといわれ、大社の稲佐の決とつながっていて、わずかな塩分を含んでいるという「塩ノ井」と、昔、須佐神社に奉納された馬は黒毛や茶毛などいろいろだったのが、須佐神社で飼われると異常を予知する能力のある白馬に必ず変わるといわれる「神馬」(現在は木馬)がある。

8月15日におこなわれる「切明神事」は「念仏踊り」とも呼ばれ、桜の造花をかぶった踊り手たちが舞い、秋の豊作を祈る色鮮やかなご神事である。



取材レポート

4月17日から19日に例祭が行われるということで、新緑の美しい須佐に行ってきました。

18日はアマテラスが祀られている須佐神社の対面の天照社へ年に一度、弟神であるスサノオが逢に行かれる行事の神事が行われます。19日は陵王舞(りょうおうのまい)をはじめ、5つの演目の神楽が奉納されます。

ゴザの敷かれた境内で人々はのんびりくつろいで神楽見物しています。小学校一年生くらいの男の子たちが、かぶりつきで見ているのがほほえましく印象的でした。「山の神」という演目では若者が山の神をやっつけてる最中、ヤンヤの声をしています。

おそらく、シンケンジャーやゴオンジャーの対決シーンと同じ乗りなんだろうと思われまます。この幼い頃の体験が神楽の伝承にはとても重要。小さな村の小さな舞台で間近で見た神楽はずっとふるさとの大切な原風景の一つになるでしょう。

山里の小さな畑には春野菜が整然と植えられ、隅には路や三つ葉が生えています。「その地の水の良し悪しは豆腐の味を決める」以前、須佐のお豆腐屋さん取材した時の言葉です。涼やかな水音の聞こえる山里で、悠久の昔から人々の暮らしと自然と信仰が溶け合った風土を感じることが出来ました。



「出雲国風土記に記された郡内人口」と「郡内と想定される現在の地域に住んでいる人口と世帯数」

秋鹿郡(等級:下)	現在の地域(上段:世帯、下段:人口)			
	伊農郷	合計	[平田]野郷	[平田]美野
里3	424	177	188	59
1,200	1,356	600	540	216

出雲国風土記掲載事項チェック

	風土記表記	現在名称	所在地
伊農郷	寺社	記載なし	
	神社	伊努社	伊努神社 美野町
	山野	都勢野	十膳山(H193m) 松江市大野町と美野町の境にある
	河川・池	伊農川	伊野川 秋鹿郡の堺
	海岸地形	自毛崎	坂浦町の牛の首
郡	都於島	大黒島	地合町(魚瀬町沖の鳥帽子岩を指す)
	通道	伊農橋	出雲市東側を流れる伊農川にかかっていた橋

秋鹿郡 (伊農郷)

あいかぐん

須佐郷は、スサノオノミコトが諸国を開拓したのちに辿りついて、最後の国土経営を行った土地だとされる。「この土地は小さいがとても良いところだ。だから、私の名前は木や石にはつけない。」とおっしゃって御魂を自ら鎮め「大須佐田」「小須佐田」を定めた。

大好き☆出雲！倶楽部で作成した「お願いごころマップ」

※「出雲国風土記」にも、この2つの神社が記載されています。



須佐神社

ヤマタノオロチを退治した出雲神話のヒーロー、須佐之男命(すさのおのみこと)がご祭神。須佐川のせせらぎと本殿の間にそびえ立つ大杉さんを眺めていると、願いごとがスーッと天にも届くような気持ちになります。すぐ近くに温泉もあり、身も心もリフレッシュ。



多倍神社

須佐之男命がご祭神。オロチではなく、鬼退治伝承のあるお宮です。社殿は、退治した鬼の首を埋めて大岩(首岩)で蓋をした上に建てたと伝えられています。近くの目田森林公園には「鬼のこしかけ岩」と呼ばれる巨岩もあります。心の鬼に負けそうになったら：ぜひお出かけください。出雲の鬼退治フィールドへ。

巻末

出雲国風土記とは何か

『出雲国風土記』とは、奈良時代の天平5年（733年）に完成した、今の島根県東部、出雲国について記した地誌（地理を紹介した本）です。『出雲国風土記』の価値や特色、魅力を学びました。

古事記・日本書紀と並ぶ 古代出雲の詳細な記録

今から約1300年前の奈良時代の和銅6年（713年）、全国60余りあったそれぞれの国に対して、その地方の地名の由来、特産物、古老の伝承などを調査、報告するよう命令が出された。この命令に従って出雲国で編纂されたのが『出雲国風土記』で、命令の20年後、天平5年（733年）2月30日に完成した。日本で記された古い書物には『古事記』（712年完成）や『日本書記』（720年完成）があるが、それらに匹敵するほど古い書物が『出雲国風土記』を含む諸国の風土記である。また、『古事記』や『日本書記』が当時の政治の中心、近畿地方の貴族の手によって編纂されたのと異なる

※郡家とは？

郡の官人である郡司が政務を行う場所であり、楯縫郡の郡家は、現在の出雲市多久谷町、出雲郡の郡家は、斐川町出西の後谷V遺跡、神門郡の郡家は、現在の神戸川左岸の古志本郷遺跡、飯石郡の郡家は、雲南市掛合町掛合にあったと言われている。

郡家と郡家との間を連結する道路を通過（かよいじ）と呼ばれる道路があった。

『出雲国風土記』では、郡家を中心とした距離の記載が目立つが、当時の交通路の拠点となる他のさまざまな施設は、どのような目的をもって、現在ののどあたりに設置されていたのだろうか。

※軍団とは？

律令政府直轄の常備軍で、一軍団は1000人規模の編成とされている。出雲国には意宇（おう）・熊谷（くまに）・神門の三つの軍団があり、そのうち神門郡にある神門軍団は、神門郡家から「正東七里」とされている。

軍団の位置を考える場合は軍団の役所以外に軍事練習場域の存在もおさえる必要があり、神門軍団は山陰道の近く、あるいは付設する形で設けられ、斐伊川の西岸、現在の出雲市大津町の来原あたりから長者原付近にあったのではないかと考えられている。

その地は山陰道と斐伊川の河川交通の

り、風土記は各国の現地地編纂された。このため、風土記には『古事記』や『日本書紀』には記されていない地方の情報がないへん詳細に記されている。

失われた風土記

各国で編纂された風土記も、平安時代には既に失われてしまったようだ。そして、現在までまったかたちでのこっているのは『出雲国風土記』と、常陸国（今の茨城県）・播磨国（兵庫県西南部）・豊後国（北部を除く大分県）・肥前国（佐賀県・巻岐と対馬を除く長崎県）の五か国の風土記だけである。そして、このうち、出雲以外の四か国の風土記には脱落した部分があったり、現在に伝わるものが省略本であるなどして、『出雲国風土記』だけが全国で唯一ほぼ完全な形で残っている。

出雲国造による編纂

『出雲国風土記』には、ほかの風土記にはない特色がある。それは、編纂者が、都から派遣された役人である国司ではなく、出雲の豪族、出雲国造出雲臣広島という人物であるということだ。風土記は現地地編纂されたのだが、『出雲国風土記』については、とりわけ多く

十字路に当たる地点であり、次に記載する烽の要となる重要軍事拠点でもあった。

※烽とは？

当時の最速伝達手段の狼煙台（のろしだい）の設置場所とされている。出雲国には馬見・多夫志・土棕・布自枳美（ふじきみ）・暑垣（あつがき）の五つの烽があり、日本海での異変をリレー式に伝達していたと考えられている。

馬見（まみの）烽は、現在の出雲市大社町浜山（41メートル）とも、大社北方の壺背山（371メートル）頂上付近の「鍋の平」ともされている。

の地元出雲からの視点が盛り込まれている。このように、地方の視点から記述された奈良時代の書物はほかになく、『出雲国風土記』はかけがえのない価値を有している。

風土記に記された古代の出雲国

『出雲国風土記』の特色は、記載が整っていて、実際に計測した数値が多く書かれていることである。そして、記された場所について、郡の役所からの方角や距離も記されているので、当時の出雲国全体の様子が、手に取るようにわかる。

出雲国の行政区分

奈良時代、全国は60余りの国に分割されていた。今の島根県東部、出雲国もその一つである。出雲国はさらに九つの郡からなり、郡はそれぞれ4〜11の郷などから構成されていた。『出雲国風土記』には、このすべての郡・郷の名前と由来、そして所在地が記されている。奈良時代の国名は全てわかっているが、各国の郡の名前やその下の郷の名前がすべてわかっていて、さらにその場所が特定できるのは、出雲国だけである。そして、この時につけられていた地名は、その多くが現在でも使われている。

国内を結ぶ交通路

詳細な道路の記載があるのも、『出雲国風土記』の特徴である。風土記には山陰道と呼ばれる都から石見国（島根県西部）・隠岐国までをつなぐ古代道路について、国内の道のりど、道路におかれた通信や宿泊の施設である駅の所在地、また、橋や渡船についても記載されている。くわえて、この駅路以外にも、郡家を連結する通道と呼ばれる国内の道路、さらには国境におかれた刻（関所）の記載もある。これらは、奈良時代の文献としては『出雲国風土記』にしか見えないものである。

従来、奈良時代の道路は細く曲がりくねった道路と考えられてきたが、近年、全国で大規模な直線道路が発掘され、道路が多数整備されたことが分かっていた。『出雲国風土記』に見える道路網はこのような奈良時代の道路政策・道路整備を明確に叙述したものだ。

出雲国内でも、実際に幅9メートルに及ぶ切通しにした道路遺跡などが、想定される山陰道ルート上で発掘されている。

※刻とは？

刻は関所とほぼ同じ意味で、国境に置かれていた。ここには兵士が配置され往來する人々を厳しく検査していた。石見国との境には、常設の刻（鶴ヶ城の山並み北側）と臨時で設置される仮設の刻（鶴ヶ城の南側）二箇所が設けられていたという。

鶴ヶ城跡周辺は、急な坂道もあるが遊歩道が整備されている。宅枳成の別名／平沙（ひらくらの）成展望台があり、田儀の町を見下ろし、日本海と稲佐の浜、「園の松山」、出雲トームまで一望できる。



平沙 成展望台から



出雲国内の烽と軍団の位置

次にリレーされるのは、多夫志（たぶし）烽で、現在の旅伏（たぶし）山（456メートル）とされており、「とぶひ→たぶし→多夫志」と呼んだからではないか

※駅とは？

古代山陰道三十里（16キロメートル）ごとに置かれた。五頭程度の馬が用意され、公の使者や役人が旅の途中で馬を乗り継ぐ所。食料、寝所を提供した。場所などについては神門郡の記事を参照のこと。

※成とは？

辺境守備施設で、海岸部に立地することから沿岸警備施設とされている。出雲国には宅枳（たき）・瀬崎（せさき）の二つの成があり、神門郡家から「西南三十一里」に、宅枳成があったとされている。

『出雲国風土記』

出雲市に関連する 神話と伝承

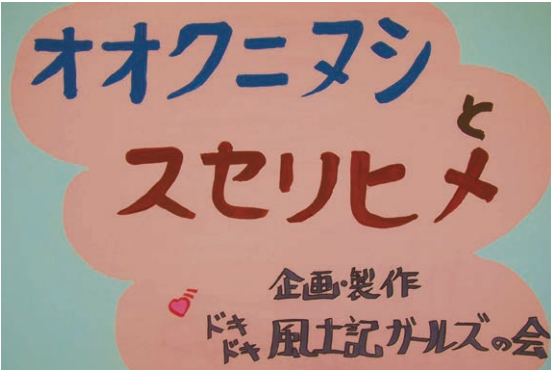
古事記や日本書紀に匹敵するほど古く、古代出雲についての歴史書よりもたくさんの方が知られている『出雲国風土記』。誰もが知りたい、古代出雲の謎に迫る基本文献といってもよい。

そこに登場する、神話と伝承も大切な出雲の宝物であると思う。特に現在の出雲市に関連するものを有識者の方々のお話も聞いて整理した。

楯縫郡

① 出雲大神に大きな天日竊宮を建てたという話（出雲大社の創始）
楯縫郡が「大神の宮」すなわち、杵築大社（出雲大社）に奉納する楯や杵を今に至るまで造っているというもの。『風土記』楯縫郡の総記の地名起源神話は、大社すなわち杵築大社（出雲大社）の創建に関わる神話でもある。ここでは、高層神殿としての杵築大社のイメージが活き活きと描き出されている。楯縫郡の総記を読み直すと、「わたしの十分に足り整っている天日竊宮の縦横の規模が、千尋もある長い栲継を使い、桁梁を何回も何回もしつかり結び、たくさん結び下げて作ってあるのと同じように、この天御量をもって、所造天下大神の住む宮を造ってさしあげなさい」

出雲神話の紙芝居「オオクニヌシとスセリヒメ」（ドキドキ風土記ガールズ制作／出雲ブランド化推進連携事業）
ドキドキ風土記ガールズの会は、古事記や万葉集、出雲国風土記に著される神話や歌、歴史や伝承を学び、郷土に誇りと愛着を持って暮そうという志のもと結成され、その活動の一環として出雲神話をより分かりやすく親しみ深いものにしたいとの思いで紙芝居を制作・上演会を開催しています。



① 日本には「古事記」というこの世のはじまり…
空が広がり、海が出来て大地が出来、草や木が生え、小鳥や動物たちが生まれ 人間が楽しく暮らし始めるまでを書いた本があります。
今日はその本の中に書かれている出雲大社の神様
オオクニヌシノオオカミのお話をしましょう。
皆さんはオオクニヌシ様の銅像を見たことがありますか？
出雲大社の松の参道をずっと歩いていくと右側に太陽を拝んでいらっしゃる大きな人。
あの方がオオクニヌシノオオカミ様です。

② ずうっと昔、因幡の国に、美しいお姫様「ヤカミヒメ」が住んでいらっしやいました。
ある日のこと、オオクニヌシと大勢の兄たちは、この美しいヤカミヒメに会うために、因幡に向かって歩いていました。
でも、かわいそうに、心やさしいオオクニヌシは意地悪な兄たちの荷物を全部持たされ、一番最後を「フウフウ」とついていくのがやっとでした。
♪ 因幡の白ウサギ ♪の歌
大きな袋を 肩にかけ 大黒様が 来かかると
ここに因幡の 白ウサギ 皮をむかれて 赤裸 ♪
オオクニヌシには、もう一つお名前があります。
それは、「因幡の白ウサギ」の歌にも出て来る「大黒様」。
昔は、二つも三つも名前を持つ人がいたそうです。

③ オオクニヌシは、傷ついたウサギの体をきれいな川の水で洗い、ガマの穂にくるんでやりました。
するとウサギは、たちまち傷が治って、元どおりの白ウサギになりました。
喜んだウサギは、「ヤカミヒメ様と結ばれるのはオオクニヌシ様です。」と予言しました。
なぜウサギが皮をはがされたか知っていますか？
隠岐の島から海の向こうの因幡の岸に行きたかったウサギは、サメをだまして一列に並ばせ、サメの背中を橋にして、ピョンピョンと飛んで渡ろうとしました。
しかし、途中で騙したことがバレてしまい、怒ったサメに、皮をはがされてしまったというのです。

② 佐香郷の百八十神が酒盛りをしたという話
「酒盛り」というように「サカ」＝酒である。ここでは佐香郷の郷名「さか」の由来として、神々の酒宴にまつわる興味深い伝承が語られている百八十神たちが集って酒を醸し、なんと百八十日もの間「喜譚」をしたというのだ。「みづく」とは水浸しになる、という意であるから「さかみづき」とは酒に浸るがごとき盛大な酒宴、ということであろう。

③ 神名楯山の石神の話
神名楯山に祀られている多伎都比古命は、その名が示すように滝が神格化された神で、「雨乞いに祈ると雨を降らせる」と記されるとおり水をつかさどる神である。ところが神名楯山の多伎都比古命の依り代は岩（石神）であって、滝そのものではない。山の中腹には古墳時代から祭祀をおこなっていた小さな滝があるが風土記の時代では滝そのものではなく、それらを含む山全体として水神の坐すところと意識されていたのであろう。
『出雲国風土記』は地名由来の記述に重きを置いているため、地名に関わりがない個別の神、神社についてはほとんど具体情報がない。

出雲郡

④ 宇賀郷の黄泉の穴の話
宇賀郷の郷名起源の後に続くのは、黄泉の坂、黄泉の穴と呼ばれる窟と穴の記述である。古代、死者の世界である黄泉国とこの世との境には「坂」があると考えられた。イザナギが黄泉国から逃げ帰っ

て岩でふさいだ坂が「黄泉比良坂」であり、『古事記』はこれを出雲国の伊賦夜坂（松江市東出雲町揖屋に比定）とする。
一方、『出雲国風土記』では「夢でこの窟のあたりに行くと、必ず死ぬ」と述べられるように、宇賀郷の脳磯にある岩窟が死後の世界への入り口と認識されていた。

⑤ 宇賀郷の綾門日女が逃げたという話
『解説出雲国風土記』では触れられていませんが、逃げ込んだとされる穴があるそうです。次なる活動の中で探訪してみたい！

⑥ 杵築郷の皇神たちが所造天下大神の宮を築いたという話（これも出雲大社の創始）

⑦ 神門水海園の松山に出てくる国引きの話
みなさんにもっとも知られている話。国を引くときに使ったそのツナが浜（園の長浜）になったと云われている。

⑧ 高岸郷のアチスキタカヒコの話
昼夜激しく泣く阿遲須積高日子命を、所造天下大神が高屋を造り、登り降りして養育したとする伝承。分断されたかたちで仁多郡三澤郷の伝承にふたたびあらわれる。すなわち、成人した御子が口もきけず泣く理由を大神が夢に問うたところ、口がきけるようになった、という出雲国造神賀詞奏上儀礼にかかわる伝承である。

神門郡

⑨ 滑狭郷のワカスセリヒメの話
大國主命の正妻であり、根の堅洲国の

試験をともに乗り越えたり、激しく嫉妬したりする重要な女神だ。『出雲国風土記』は郷名由来にひきつけて、若々しい女神が滑狭郷に祀られていること、そのもとに所造天下大神が妻問いに通うことを語る。滑らかな磐石とは、九景川の溪谷にある岩坪（出雲市東神西町）のことだ。現在も川中に露出する岩盤は水流に洗われ、たしかに『出雲国風土記』が記すとおり滑らかな表面をなしている。
スセリヒメの紙芝居／36～40頁参照

飯石郡

⑩ 須佐郷のスサノオの話
スサノオと言えば、『古事記』や『日本書紀』に見えるヤマタノオロチ退治が著名である。記紀の原文表記は、それぞれ「建速須佐之男」、「素戔嗚」であり、前者には「勢い激しい進み放題の男」、後者には「荒れすさぶ男」という意味が込められている。これに対して、『風土記』のスサノオは、「神須佐能衰」あるいは「神須佐乃鳥」と表記され、「須佐の男」という意味となる。
スサノオは素朴で平和な地域社会の首長のイメージ。出雲各地を巡行する。そして巡行の末に、飯石郡須佐郷に鎮座し、「大須佐田」・「小須佐田」を定めたという。これは社を作って、土地を開発するといった小規模な国作りの神話である。

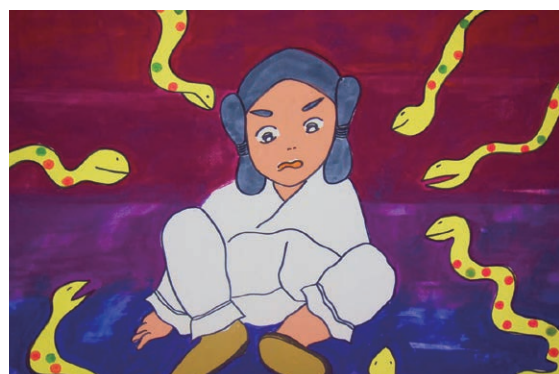
全体として『出雲国風土記』には『古事記』のようなまとまった神話としては、掲載されていないため、断片的な話について故地を紹介する方法で整理してみました。

《出雲神話の紙芝居「オオクニヌシとスセリヒメ」》

(ドキドキ風土記ガールズ制作／出雲ブランド化推進連携事業)



⑦
木の国から急いで逃げたオオクニヌシは、たくさんたくさん歩いて、やっと根之堅州国にたどり着きました。「誰に断ってこの国に入ってきたのですか？」と問う声が聴こえ、声の方を見ると…。「何と美しい！」オオクニヌシは声の主の美しさに、とても驚きました。「私はオオクニヌシです。」「私はスセリヒメ。スサノオの娘です。」娘は答えました。一目でお互いを好きになった二人は、スサノオに許しをもらうことにしました。



⑧
「娘のスセリヒメにふさわしい男かどうか、一つ試してやろう。」そう考えたスサノオはオオクニヌシに、恐ろしい蛇がたくさんいる小屋へ入って蛇退治をするように命令します。スセリヒメは美しく染められた「ひれ」という細長い布をオオクニヌシにそっと渡し、「この布を三回振ってください。」とささやきました。オオクニヌシは、たくさんの蛇がとぐろを巻いている怖くて気味悪い小屋にそっと近づいて、スセリヒメから渡された布を一生懸命三回振りました。するとあら不思議。蛇は皆あわてて逃げていきました。ところがスサノオは、「もう一回試してやろう。」と考えました。



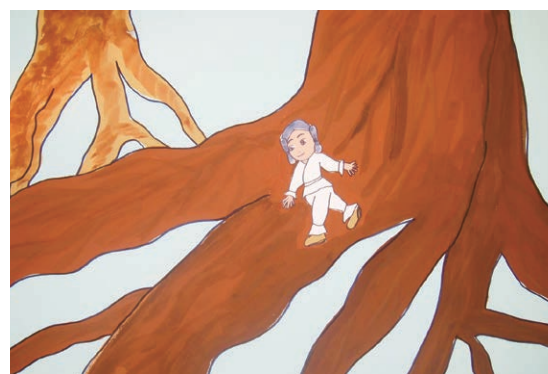
⑨
次はムカデと蜂の部屋です。刺されでもしたら大変な事になると心配したスセリヒメが、またまた助けます。「この布を三回振れば、蜂もムカデもおとなしくなるはずです。」こうしてスセリヒメに助けてもらい、ホッとしたのも束の間…。またまた恐ろしい事を命じられました。それは…。魔法の布はどんな色だったかな？昔は植物や貝やいろいろなもので、きれいな紫・黄色・ピンクなどの色を染めていたようです。

《出雲神話の紙芝居「オオクニヌシとスセリヒメ」》

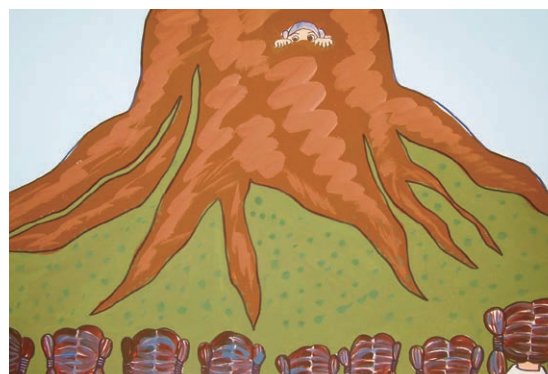
(ドキドキ風土記ガールズ制作／出雲ブランド化推進連携事業)



④
ウサギの予言どおり、オオクニヌシはヤカミヒメに愛されましたが、兄たちはこのことをねたみ、さらにひどい意地悪をしました。真っ赤に焼けた大きな石で火傷をさせられたり、大きな大きな木の間にはさんで大怪我をさせられたり…。でも、いつも助けてくれる人がいます。それは、優しい優しいお母さん。お母さんは火傷を治したり大怪我を治すために、赤貝やハマグリから作った薬をくれました。この薬も、ガマの穂綿も、今でも傷薬として良く効く事が知られています。昔の人は薬のことも詳しくったようですね。



⑤
お母さんは、オオクニヌシを心配して、「お兄様たちは何てひどい事を…。このままだと殺されてしまうかもしれませんよ。オオクニヌシよ、木の国のオオヤビコノカミのところにお逃げなさい。大変なことになるうちに、さあ早く…。」と言い、オオクニヌシを避難させました。しかし、逃げた先へも兄たちは押しかけて来ました。何て怖い兄たちでしょう。オオクニヌシは兄たちと仲良くしたいと思っているのに…。



⑥
木の国のオオヤビコノカミは、「これは大変だ。お兄さんたちが、こんなところまで来るなんて。オオクニヌシ様、根之堅州国にスサノオ様という、とても強い方がいらっしゃいます。そこへお行きなさい。きっと助けてくださいますよ。サッ！早く早くお逃げなさい。」と言い、今度は、オオクニヌシを根之堅州国のスサノオ様のところへ逃がしました。

《出雲神話の紙芝居「オオクニヌシとスセリヒメ」》

(ドキドキ風土記ガールズ制作／出雲ブランド化推進連携事業)



⑬
「待てっ！オオクニヌシ。
お前は立派な男だ。スセリヒメと二人で行け。
オオクニヌシ、行け、行って国づくりをせよ。
魔法の力を持つ宝物をやろう。」
「生命力の刀『生太刀』、生命力の矢『生弓矢』、霊力の琴『天の沼琴』。
この宝物は必ずお前が困った時に助けてくれる。」
スサノオに励まされた二人は旅立ちました。
そして協力し合って、人々が安心して幸せに暮らせる出雲の国を
作り上げたと言われています。

神話の紙芝居製作：ドキドキ風土記ガールズの会（公益信託 しまね女性ファンド助成事業）
新作紙芝居「オオクニヌシとスセリヒメ」上演会（平成26年3月16日 平田学習館にて）
主催：ドキドキ風土記ガールズの会
協力：出雲ブランド化推進市民委員会、平田本町商店街振興組合、子育てサークル「たけのこの会」
印刷者：出雲ブランド化推進市民委員会
事務局：出雲ブランド室（0853）21-6274

～知ってほしい取り組み～

出雲ブランド商品 「出雲神話紙芝居」（平成25年度認定）

株式会社 かみありづき 出雲市知井宮町 221 番地 3

古事記を一連の流れでストーリー化した紙芝居は全国でも類がなく、単なる童話の世界とは違う神話を子どもから大人まで楽しむことができる商品です。紙芝居は6作からなり、子どもたちにも飽きがこないよう5人の有名作家を選び、それぞれ違うタッチで描くなど工夫がされています。独自性もあり、出雲を全国へ紹介する商品として期待されます。



日本の神話シリーズ

- ① 天の石屋戸（いわどや）
- ② やまたのおろち
- ③ イナハのしろさぎ
- ④ 根の国のものがたり
- ⑤ 小さな神さま
- ⑥ 国ゆずりのものがたり

神話の国「出雲」に響く、故郷の歌 愛しきわが出雲

作詞・作曲 竹内まりや 編曲 山下達郎
Produced by MARIYA TAKEUCHI

好評発売中!!

- 収録曲
1. 愛しきわが出雲
(合唱団バージョン 合唱：愛しきわが出雲市民合唱団)
 2. 愛しきわが出雲 (ピアノバージョン 歌唱：岩谷ホタル)
 3. 愛しきわが出雲 (オルゴール・バージョン)
 4. 愛しきわが出雲 (オリジナル・カラオケ)
- 販売価格：1,000円(税込) / 品番 IZCD-173222



《出雲神話の紙芝居「オオクニヌシとスセリヒメ」》

(ドキドキ風土記ガールズ制作／出雲ブランド化推進連携事業)



⑩
「ビューン」と、広い野原に大きな大きな音を鳴らして飛ぶ恐ろしい矢を放ち、その矢を取ってくるように命じます。オオクニヌシは広い野原を捜して歩きます。ところがスサノオは、さらに怖いことをします。「野原に火を放て！」なんと四方から恐ろしい勢いで火が迫ります。火に取り囲まれたオオクニヌシは、もう終わりでしょうか？
♪内は ホラホラ 外は スプスプ♪
かわいらしい歌声が聞こえてきました。小さなねずみが歌っています。「穴の中へお逃げよ。」ねずみが言いました。「ドスン…。ああ痛いっ。」オオクニヌシは深い穴に落ちてしまいました。



⑪
「ここはどこだろう？」オオクニヌシがそうとあたりを見回すと、何とそこは、さっき歌を歌っていたねずみの巣穴。ねずみたちが仲良く暮らしているようです。「オオクニヌシ様をお助けしろ。」「オオクニヌシ様に矢をお返しするんだ。」ねずみたちが捜していた矢を持ってきてくれました。「ねずみ君たち、ありがとう。」狭い出口から外に出ると、あたり一面火の海です。矢を持って火の中を一所懸命に走って、スセリヒメとスサノオのもとへ…。



⑫
無理難題はこれで終わりではありませんでした。スサノオは今度はムカデを退治するように命じます。今度もスセリヒメの助けで、オオクニヌシはムカデを退治することができました。「オオクニヌシめ、なかなかやるな、感心だ。」安心したスサノオは、うとうと気持ち良さそうに眠り始めました。その姿を見たオオクニヌシは、スサノオの髪の毛を周りの柱に結びつけて動けないようにして、スセリヒメの手を引いて逃げ出しました。こっそり、そうと、見つからないように…。ああ、でも見つかってしまいます。スセリヒメが持っていた琴が木の枝に触れて、ボンと大きな音が鳴ってしまったので見つかったと言われています。